

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成 27 年度第 5 回定例会 要点記録

日 時 平成 27 年 11 月 24 日（火）午後 2 時～ 4 時

場 所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・門委員・長谷部委員・橋本委員・萩原委員・戸澤委員・伊藤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館館長・豊泉もとまち公民館長・木場並木公民館長・秋元本多公民館事業係長

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

(2) 第 4 回定例会要点記録確認 ⇒承認

2 報告事項

(1) 第 56 回関東甲信越静公民館研究大会について

平成 27 年 11 月 14 日（土）ルネ小平で開催

委員：初めてこのような大会に出席した。基調講演で社会の貧困化が問題となっていることが印象に残った。また、今回分科会形式はなぜできなかったのか。

事務局：通常 2 日間で実施し、初日は基調講演、2 日目は分科会を実施している。今回、東京都で実施するにあたり、11 市で開催したため、1 日開催となった。来年度の神奈川県での大会は、2 日間の日程で、分科会も行う。

委員長：参加者数は。

事務局：600 人ぐらいだった。

委員：当日、販売していた本は書店で手に入るのか。

事務局：書店で購入できる。

(2) その他

事務局：配布資料「国分寺市教育広報誌」No 3 に基づき、恋ヶ窪公民館夏季自習室・もとまち公民館第四中学生に習う初級パソコン教室について説明。

3 協議事項

(1) 諮問について

①「地域づくりとは何だろう」について

事務局：資料 1 「恋ヶ窪公民館 成人総合講座 恋ヶ窪アカデミー」に基づき内容について説明。

委員：受講者数と聴講者数は。

事務局：受講者の登録は 11 人だったが通常の参加者は 4 人程度。聴講生は多い

時に3人で、いない時もあった。

委員長：通してみると聴講生の人数はどうか。

事務局：第2回から第8回まで聴講生を募集し1人から2人の参加があった。

委員：企画については、市民参加や運営サポート会議で決めたのか。

事務局：今回は初めての事業であるため職員が検討し決めた。

委員長：この事業は、来年度も継続するのか。

事務局：継続したいと考えている。

事務局：資料2「光公民館 防災学習会」に基づき内容について説明。

委員：防災学習会は連続何回の講座か。

事務局：連続7回の講座。

委員：宿泊訓練は何時に集合して何時に解散したのか。

事務局：夕方3時から4時に集合し夕食を作り、翌日開館前の朝7時に解散した。

委員：保育付で実施ということだが、どのくらいの利用があったのか。

事務局：今年度は15人定員で20人の応募があった。前年度は5人の利用である。

委員：3回目はグループが実施したとあるがどのような形か。

事務局：市との協働による共催事業になる。

委員長：防災という想定だが、地震に限定か。

事務局：ひとつは地震で、火災も合わせて行っている。

委員長：水害はないのか。

事務局：市内に野川が流れているが近年は洪水等の心配はない。ゲリラ豪雨などの水害対策はある。

委員：グループの性別は。

事務局：10人で男女比率は半々、年配の方が中心で、1人若い方がいた。

委員長：講座を通じて地域の課題を考える事例としては対称的である。恋ヶ窪公民館では、まちづくりをめぐる問題を専門的な方を呼び教養的な講座を実施した。光公民館では、自治会や地元の方と協力しながら、体を動かして学ぶ講座で、地域との連携が出来てきている。

委員：恋ヶ窪アカデミーは、公民館が地域に密着する要素を秘めている。健康の問題や防災などさまざまなテーマを設定して人を発掘する講座になる。

委員長：受講生も対照的だと思う。恋ヶ窪アカデミーには、まさにアカデミーな方が集まり、光公民館には自治会の方が集まっている様子である。

事務局：恋ヶ窪アカデミーの受講者は、そのエリアに長くお住まいの方もいるが、定年してから地域のことを知ろうとする方も受講している。

委員：グループ化を検討しているのか。

事務局：まだ話は進んでないが、3月ぐらいに参加者に案内し、さらに準備会などを実施して、まちのことを学ぶ機会としたいと考えている。最終回に話し合いの時間を十分設定していきたい。

委員：参加者の方が次につながるようにしてほしい。

委員長：一方で新しく国分寺市民となった方や退職し国分寺市や地域のことを初

めて学ぶ方に、国分寺市の歴史等が学べる講座があつて良いと思う。

委員：自分が住むまちを学ぶことは大切であるが、いろいろな部署でおこっているテーマであり、具体的にイメージすることが難しいと感じている。

委員長：確かに恋ヶ窪アカデミーは長時間の講座で、参加する方に不安があり、その中で聴講制度もあると思う。そのところはどうか。

事務局：まちの課題は多様化していると思う。イメージとしては、さまざまなテーマが横に繋がっている。1つの課題だけを学ぶのではなく、総合的に学ぶことに意義があると思っている。

委員：理解できるが、3つぐらいのテーマに分けて実施した方が良いと思う。1つは歴史、2つめは自然・環境、最後にまとめがあるなど3段階に分けた方が良いのではないか。東京都から配布された「東京防災」（黄色の本）はどのように光公民館で活用するのか。

事務局：12月6日に消防署の職員が講師となり2時間の講座をおこなう。

委員：恋ヶ窪アカデミーについて、人権や環境などはそれぞれの部署で学習会をもうけているので、なぜ公民館で実施するのか。行政の縦割りでなく、横のつながりで市民が理解するには社会教育しかないと考えている。本多公民館で「公民館を考える講座」を実施したが、受講生が少なかった。理由を考えると、職員が企画し、職員が講師となっていて、これはまとまりにくい。市民を初期の段階から募集し、市民目線で行っていくべきだと思う。次回は企画段階からNPOや市民を交えて講座を実施してほしい。恋ヶ窪公民館の近くには大きな雑木林がある。環境をテーマに公民館が拠点となるような学習を行ってほしい。光公民館では、職員中心で行っていたものがグループ中心に移行していったことは興味深い。市民グループへの移行は簡単でないが、野本先生など専門家の関わりが大きかったのか。

事務局：野本先生の力は大きかったと思う。自治会だけでは何が正解か見つけるのが難しい。大船渡へ視察に行ったこともありまとまったと考える。

委員：この地域の方の防災に関する関心が非常に高いことがあると思う。

委員長：地元の関心と先生との関係が良い関係であった。

委員：恋ヶ窪アカデミーは、入門編としては期間が長く、内容も広く感じた。

委員長：工夫の余地はあるが、どこの公民館でも取り組める講座である。

委員：どうしたら講座でつなぎとめることができるのだろうか。つなぎとめた成功例はあるのか。

事務局：恋ヶ窪アカデミーは今年度初めて取り組んだ。公民館に期待されることとして、地域の拠点ということがあり、地域に関心を持っていただきたく今回の講座を実施した。意見をいただきながら磨きをかけることで継続していきたい。防災については、防災会などは活発に活動している。地域の方が切実に感じている課題を発展させて、地域の方と連携して講座を実施していきたいと考えている。

事務局：お父さん応援講座では、魅力あるプログラムとしてうどん打ちを入れた

が、大きなテーマはワークライフバランスであったため、年齢幅がありグループ化にならなかった。その次においしいコーヒーの入れ方を入れ、保育付で実施したところ、年齢が絞られ、グループ化できた。

委員長：地域の課題を講座の内容にすえるのは、必須のこととして答申に入れていきたいと思うが、どのようにテーマ化するか。そのテーマによって学習関心がどのように発展し、人々が主体的に取り組めるか。地域の課題を解決するための行動であったり、地域のコミュニティを強めることであったり、見取り図のような記述をお願いしたい。

事務局：資料3「平成26年度に実施したグループによる地域への還元事業について」、資料4「主催講座から自主グループ化した事業一覧」に基づき内容について説明。

委員長：グループによる地域への還元と、主催講座から自主グループ化する流れを発表していただいた。地域づくり目指す視点からどのように考えるかご意見をいただきたい。

委員：「幼い子がいる親のための教室」で、私自身の経験から、国分寺市がこの講座により第二の故郷になったと実感としている。この講座によって本当の親同士のつながりが持てた。自分ひとりの時間が持て、公民館の職員がいることで大人同士の関係が持てたと思っている。

委員長：公民館保育室が充実していると、親子同士のつながりが持てている。これは重要で、公民館保育室の子育てでまとめていただきたい。

委員：お子さんが大きくなって、小学生になることで、PTA役員になることの確率やその役から見た地域づくりなどを知りたい。

委員：私の感覚で、公民館保育室の経験者がPTA役員になる確率は高いと感じている。それはこの講座が、自分で考えること、お母さんだから考えるのではなく、自分の頭で考えることを思い出させてくれた。自主グループになると、保育室の予算のことで、教育長や市長と面談することもあり、自分が言ったことが市政に反映される可能性があることが体験できる。PTAに対するハードルも低くなり、大変なことと思わないで、大切なことと考えることができるのではないかな。

委員：PTA経験がまちづくり活動につながる可能性は。

委員：まちづくりとか市政に対するアレルギーがあると思う。不満がなく、普通に暮らせればよいという感覚から、意見を言うことで少し変わっていくことを体系的に理解していることが大きいと思う。

委員長：ぜひ公民館保育室のコラムを書いていただきたい。

委員：公民館保育室を体験すると、市全体のことがわかり、知り合う方も増える。

PTA活動をすると、自治会や町会とも知り合い、地域との関わりが増える。

委員長：公民館保育室での職員との関わりは非常に興味深い。

委員：自主グループ化は難しい問題であると思う。「幼い子がいる親のための教室」は、世代が変わり、新しいリーダーが誕生していつていることもある

と思う。リーダーになる人材をいかに育てるか。また場所の問題もある。活動できる場所がないなか、小学校など他の活動できる場所を確保していくことも必要だと思う。

委員：職員の役割は大きいと思うが、職員はどのようなサポートが必要か。

委員：リーダーの話があったが、リーダーは必要であるが、メンバーの中で反対意見も必要である。講座に公民館職員が入ることで、自分の良いところを引き出してもらい話し合いが行われている。メンバー同士の話し合いが大事で、コーディネートは職員の役割だと思う。

委員：自主グループになるには、目的がひとつの方向に向いていないとまとまらないと思う。

委員長：グループによる地域還元では、防災講座など目的がはっきりしているものがある。このような流れをどのように位置づけるべきか。

委員：ボランティアセンターでは、イベントボランティアの登録制度があり、好評である。高齢者施設や保育園から依頼があるが、それをコーディネートするのが社会福祉協議会となる。ボランティアには公民館出身のグループもある。社会福祉協議会での地域づくりは、市民の参加が大切である。同じように登録していただき、公民館がコーディネートすることは可能ではないか。写真やアロマなど個人での技能がある方がいるが、個人宅に個人が訪問することは抵抗がある。グループに依頼することで可能になる。

事務局：地域還元の主旨は、公民館で学んでグループ化し、例えばはけの会やエクセルで健康管理などは、広く市民の方に還元する活動を行っている。

委員長：自分たちの趣味で好きなことを学び、それを必要とする地域の方へお返しできる内容もある。

委員：第八小学校では、はけの学習で学んだ方がグループ化となり、学校の授業ではけの学習に参加していただいている。

委員長：まさに循環型の学びとなっている。また個人の家に個人が行くことはありえないことであり、それを公民館や学校など公共的なものを媒介することで、循環することがわかった。各自主グループの地域への還元がどのような意識で、どういうことが得られるのか。この内容を検証するために、記録的アンケートを実施するとありがたい。

委員：以前、平成 22 年ごろに有料化問題があり、自主グループがまちづくりに関係してアンケートを実施した記憶がある。参考になると思う。

委員長：学習について、公共の場で行われている意味について、人のつながりなど循環する内容が発表され、有意義な意見交換がされた。次回の日程については。

事務局：次回は平成 27 年 12 月 22 日（火）午後 2 時から行う。

委員長：内容は、福祉と地域づくりを探ると題して、初めに社会福祉協議会に、ボランティアセンターと公民館との連携・協働を目指す内容でお願いしたい。次に国障連喫茶ほんだに公民館との関係の内容についてお願いする。

あと、公民館の「くぬぎ教室」について発表してもらおう。その次の1月26日は子どもの問題として、学校と公民館との関係で願います。

事務局：児童館と公民館の関係や、地域のジュニアリーダーについても報告できるように検討する。

委員長：2月は、今までの発表をまとめる方向で考えていたが、高齢者の問題も取り上げたいと思う。3月には管外視察を行う。以上で終了する。